株主通信

第29期
2011
Business Report
2011.1.1-2011.12.31

JASDAQ 証券コード：3386

特集
「がん」の克服に向けた基礎研究の躍進

人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

世界のライフサイエンス研究を支援する専門商社

お客様の「満足」が私たちの「喜び」に。
お客様とつながる研究支援・商品開発を目指します。

私たちの経営理念のひとつ、
『ライフサイエンスの進歩・発展に貢献する』。
その活動のために私たちコスモ・バイオは、
お客様からの信頼、人と人とのつながりを大切に、
未来につながるライフサイエンス研究を、
心をこめてお手伝いいたします。

代表取締役社長
笠松 敏明

当期（2011年12月期）の連結業績について

Q1. 当期の連結業績はいかがでしたか？

結果といたしましては増収増益となり、株主の皆様に良いご報告をできる業績を上げることができました。しかし、厳しい事業環境下での経営であったと感じております。

事業環境を振り返りますと、当第1四半期（2011年1月～3月）のバイオ関係分野の政府補正予算は前年を大きく下回る低水準なものでありました。また、2011年度の政府の科研費予算は前年度を大幅に上回ったものの、3月に発生した東日本大震災、その後の節電などが研究活動にも影を落とし、予算増の効果が十分に発揮されない厳しい状況となりました。

こうした環境下、ビーエム機器（株）の連結子会社化を前第2四半期より行っており当期は第1四半期より同社の売上高が加わっていることからも、連結売上高は前期比7.7%の増収となりましたが、当初予想に対しては未達となりました。

一方、利益面では、為替が円高水準で推移したこと、諸経費の節減が計画以上に実行できたことなどから、連結営業利益は前期比27.1%の増益となり、また、当初予想も上回る結果を上げることができました。

2011年12月期の連結業績

（単位：百万円）

	前期実績	当期 当初予想（2月14日公表）	当期 実績	前期比増減	当初予想比増減
売上高	6,676	7,529	7,192	＋7.7%	−4.5%
営業利益	701	765	891	＋27.1%	＋16.5%
経常利益	635	783	856	＋34.6%	＋9.3%
当期純利益	373	433	458	＋22.8%	＋5.8%

2012年12月期の取り組みについて

Q2. 2012年12月期の重点施策を教えてください。

2012年12月期は、これまで積み重ねてきた取り組みの成果を、もう一段階上のレベルで発揮できるよう、取り組みテーマをより絞り込み、徹底的に推し進めていきたいと考えております。

当社グループの事業の根幹は、ライフサイエンス分野の基礎研究に携わっている研究者に対して、可能な限り多くの商品を取り揃え最先端かつ最新の商品をお届けしていくということです。この根幹の強化に努めていくことが、当社グループの最優先課題です。

そのために、商品探索力をさらに強化すると同時に自社品の拡充も図ってまいります。研究者の目にとまるような魅力的な新商品を増やしていくために、当社グループは今、“探す”能力と“自ら創り出す”能力の両方を高めようとしております。前者は、本社に商品探索の専門部隊を設置し、米国子会社とも連携しながら強化に努めております。後者については国内企業や研究者との共同開発により、マイクロRNAなど

注目が集まる分野を中心に新商品の開発･提供を推し進めております。細胞関連の製品を開発している子会社（株）プライマリーセルとの連携は現在、かなり軌道に乗ってきており、当社グループ独自の商品や、受託解析をはじめとしたサービスの拡充が進んでおります。今後は、一昨年に連結した子会社ビーエム機器（株）との連携を強化し、機器類においてもグループとしてのシナジーを発揮していける新商品･サービスの拡充を図っていきたいと考えております。

糖代謝測定キット
糖尿病や肥満などの治療研究に欠かせない、糖代謝測定。世界で唯一の、放射性物質を使わない安全･簡便なキットを開発しました。

Q3. 商品検索システムをリニューアルしたとのことですが。

根幹強化のための重点施策の一つとして、商品検索システムの機能･運用強化と商品データの徹底整備を推し進めております。約200万にも及ぶ膨大な商品の中から研究者が自分の研究に必要な商品を迅速･的確に見つけることができるよう、当社が業界に先駆けて開発したのが、Web上での閲覧が可能な「商品検索システム」です。このシステムを常に魅力的な状態に保つこと、すなわち、常に機能性を高め、また最新の商品データの入換･追加などのアップデートを行っていくことが、このシステムの信頼性･利用頻度を高め、結果として売上の増加に繋がってまいります。2011年にも比較的大きなリニューアルを実施しておりますが、このシステムに対する投資は今後も継続していきたいと考えております。

Q4. 商品を迅速にお届けするという物流面ではいかがですか？

物流は商社の根幹をなす機能ですが、これに関連した重点施策として、在庫品販売比率のアップに取り組んでおります。

機器を除き当社グループの商品の多くは、タンパク質や細胞等、いわば“生もの”です。そのため在庫を持つことは、一定期間売れなければ即廃棄というリスクを伴います。しかし、在庫を持たなければ商品の迅速なお届けができず研究者の活動が停滞してしまったり、また当社にとって販売機会の喪失というリスクが生じます。当社グループでは、求められた商品をできる限り迅速にお届けし研究のスピードアップにも寄与していくことを優先させ、ある程度の廃棄リスクを冒しても一定量の在庫を確保するという選択をしております。在庫として確保する商品と実際に売れる商品を合致させていけば、在庫品販売比率がアップしていきます。そしてこれを実現させるためには、前述の商品探索力の強化と自社品の拡充がカギを握っております。すなわち、「これはコスモ･バイオでなければ」というユニークな商品や、注目を集めている分野の最先端の商品など、魅力的な商品を増やし、それらを在庫として持つことが在庫販売比率アップの一助となると考えております。

Q5. その他、中長期的な視点から重点的に強化を進めている取り組みをお聞かせください。

一つは、細胞関連分野の売上アップの加速です。当社グループの得意分野の一つである細胞関連分野は、子会社（株）プライマリーセルの主力分野でもあり、商社機能とメーカー機能の両輪で強化していけるというメリットがあります。

もう一つは、海外展開です。(株)プライマリーセルによる自社品の拡充に対応しながら、代理店をはじめとした海外販売網の拡充を推し進めてまいります。

今後の見通しについて

Q6. 今後の事業環境をどのように予想していますか?

これまでのところ、政府から出されている2012年度の予算案では、科研費は2年連続で大きく増額する見込みですし、震災復興に向けた対策予算も加わり、ライフサイエンス関連のマーケットは活況を取り戻し拡大の方向に転じるものと期待されます。しかし、国の財政再建問題、回復軌道に乗りきれない国内景気動向、中東など紛争の火種の絶えない国際情勢など、先行き不透明な環境が続いており、当面は厳しい事業環境に置かれることを覚悟しなければならないと考えております。

Q7. そうした環境の中で、通期の見通しはいかがですか?

厳しい環境下ですが、前述のような重点施策を推し進めることで、2012年12月期の連結売上高は前期比2.9%増の7,400百万円を予想しております。一方、利益面につきましては、為替を2011年12月期実績の79円/ドルから2012年12月期は83円/ドルと想定していることから仕入原価の増加を見込んでおり、また販売費及び一般管理費は節減を基調としつつも販売促進は積極的に活動する計画のため、連結営業利益は同13.0%減の775百万円を予想しております。

2012年12月期の連結業績予想

(単位:百万円)

売上高	7,400	+2.9%
営業利益	775	−13.0%
経常利益	823	−3.8%
当期純利益	480	+4.8%

Q8. 最後に、株主の皆様への利益還元についてお聞かせください。

まずは当社グループが健全な形で業績を伸ばし成長していくことが肝要であると認識しております。その上で、安定配当を行っていき、株主の皆様に長期的かつ安定的に当社株式をご保有いただければと願っております。

2011年12月期は、新たな施策として中間配当を開始したこと、自己株式を取得したことなどがございました。1株当たり年間配当は前期比200円増配の2,000円、配当性向26.1%とさせていただきました。2012年12月期についても、厳しい事業環境が見込まれる中ですが、2011年12月期と同額の年間配当を計画しております。

また、適時的確な情報のご提供も株主の皆様の利益につながる重要な事柄であると認識し、今後もIR活動を積極的に展開してまいりたいと考えております。

株主の皆様には、引き続き当社グループの経営にご理解とご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

特集：「がん」の克服に向けた基礎研究の躍進

ライフサイエンスの発展により、かつては治療が困難だった疾病の治療が次々と可能になってきました。そうした中、今回は、新たな可能性が見えてきた「がん」の治療と診断の分野にスポットを当ててライフサイエンスの基礎研究の状況をご紹介します。

現代人にとって「がん」は身近な病気だけど、そもそも「がん」って何？ 治療法は？

「がん（悪性腫瘍）」は、遺伝子の異常によって生じる病気です。社会の高齢化に伴ってがん患者数は今後も増加していくと予想されています。そのため、がんの克服は非常に大きな社会的課題なのです。

がん治療には、右に示した通り、現在3つの治療法があります。手術療法と放射線治療は局所的な治療法です。そのため、完治させるためには、全身くまなく治療することができる薬物療法を必要とする場合が少なくありません。しかし、現在の薬物療法（抗がん剤による治療）は、様々な副作用を伴ってしまいます。

がんの3大療法

- 手術療法
- 放射線治療
- 薬物療法

局所　がん組織が存在する部位のみを治療

全身　全身くまなく治療できるが、**副作用**との戦い

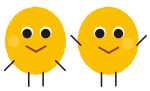
抗がん剤はなぜ副作用が起こる？

たとえば…

がん細胞
（急速に増殖する特性を持つ）

抗がん剤

増殖の早い細胞を区別なく一斉に攻撃するため、正常細胞も破壊してしまう！



増殖が早い正常細胞
（血液細胞・毛根細胞など）

基礎研究によって、がん治療はどう進歩してきているの？

がん細胞にはいろいろな種類があり、それぞれ特性や効く薬剤も異なります。たくさんの未解明の部分を明らかにするため、多くの研究者が日々研究に励んでいます。

このような、目立たないながらもがんを克服するためにとても重要な基礎研究。右に示した例のように日々進歩し続けるがん治療も、地道で膨大な基礎研究があってこその成果です。

基礎研究の結果、日々進歩するがん治療（例）

分子標的薬（新たな薬物療法）	がん細胞だけが持つ特徴を分子レベルでとらえ、がんを抑制。従来の抗がん剤と比べ副作用が少ない。現在20種類近い分子標的薬が治療に使用されている。
副作用の低減	吐き気を抑える支持療法の発達や投与方法の工夫により抗がん剤の副作用を低減。
オーダーメイド治療	研究の結果、一部のがんに対しては、患者の遺伝子を調べることで予め薬の効果を予測できるようになり、効果的な薬剤選択方法として治療に導入されつつある。
がん細胞の可視化	がんを分子レベルで光らせるなどの技術が研究されている。まだ実験段階だが、将来的に、よりがん組織にフォーカスした外科療法が可能になると期待。
RNA医薬（分子標的薬に次ぐ次世代医薬品）	がんとマイクロRNAの関係性の研究が進むにつれ、マイクロRNAを利用したがんの治療の可能性が期待され、現在精力的に基礎研究が行われている。

がん研究支援にはさまざまな専門の団体や組織が取り組んでいて、日本癌学会もその一つ。コスモ・バイオも毎年この学術総会に参加して研究活動を積極的に支援しているんだ。

当社のランチョンセミナー風景

当社の展示ブース

最新のがん研究情報を相互に交換する場として、学術総会には多くの研究者が集まります。忙しい研究の合間をぬって参加した研究者の方々のお役に立つために、当社では、国内外で使用されている最先端の試薬・機器や実験手法の情報をお届けするとともに、今回は次世代バイオ医薬として期待されるマイクロRNA技術のセミナーを開催しました。

第70回 日本癌学会学術総会

- 期日：2011年10月3-5日
- 会場：名古屋国際会議場
- 学会参加者数：約4,400名
- 演題数
  - 招待講演：約90
  - 口頭発表：約1,200
  - ポスター発表：約1,200
- ランチョンセミナー：30
- 企業展示：100社

マイクロRNAの発見で、がんの治療と診断に全く新しい可能性が見えてきたってホント？

注目研究 ▸▸ 「マイクロRNA」を利用した、がんの治療と診断

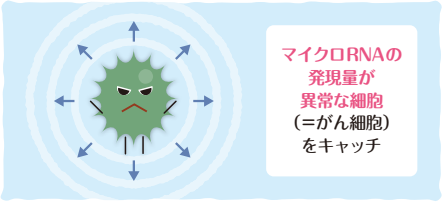
◆◆ 遺伝子を制御できれば、がんの進行は抑制可能。

前述のとおり、がんは遺伝子の異常によって起こる病いです。ですから、遺伝子を制御できれば、がんの進行を抑えることができると考えられます。近年、遺伝子の働きを制御する「マイクロRNA」分子が発見され、研究が積み重ねられてきた結果、がん細胞中のマイクロRNAの発現量が正常時に比べて大幅に増減することがわかりました。この発見によって、がん治療とがん診断に新たな扉を開く可能性が広がってきたのです。

◆◆ がん細胞のみを標的にした、副作用の少ない療法。

抗がん剤や分子標的薬では主にがん細胞の増殖や転移に関わる「タンパク質」分子を標的として治療を行うのに対し、マイクロRNAにより目指すのは、マイクロRNAの発現量が異常な細胞の「遺伝子」を標的とした治療です。この治療方法では、正常細胞への悪影響は少なく、副作用は大幅に低減すると考えられます。また、マイクロRNAはもともとヒトのからだの中に存在する分子であるため、従来の抗がん剤とは異なりからだにとっていわゆる「異物」ではありません。こうしたことから、マイクロRNA治療は、がん治療におけるがん患者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上につながることも期待できます。

マイクロRNAの可能性



がん治療
（次世代医薬品）
マイクロRNA量を正常に近い状態に戻すなどの方法でがんの進行を抑える

がん診断
（がんマーカーとして）
マイクロRNA量を測定（血液・病理検査）することで病態の把握などに役立てる

コスモ・バイオは マイクロRNAを 測定する サービスを 始めました！

最新の「LNA技術」を用いた

マイクロRNA定量PCR受託解析サービス（研究機関向け）

マイクロRNA医療に欠かせないのが、その発現量と種類を正確に解析する技術。実はマイクロRNAはもともと体内にごく微量しか存在せず、形も似たものが1,000種類以上あり、正確な解析はとても困難です。当社では、そんな問題を解決するLNA技術を用いたマイクロRNA定量解析受託サービスを2011年10月より開始し、大変ご好評いただいています。

トピックス

Topics 1 毎年恒例の「公開講座応援団」を実施

大学等が行う公開講座に協賛し、ライフサイエンスの面白さと楽しさを伝えるお手伝いをしています。2011年度は、9団体の公開講座に協賛しました。

2011年度に開催された講座の一例

『細胞内構造の観察とがん研究への応用』
愛知県がんセンター研究所

『世界の化学・生物実験～DNA鑑定』
和歌山工業高等専門学校

Topics 2 「個人投資家向け会社説明会」を開催

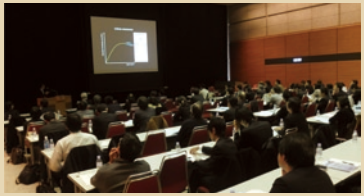
2011年10月15日に、大和インベスター・リレーションズ（株）主催の会社説明会に参加しました。

▶▶
http://www.cosmobio.co.jp/ir/new/2011/10/20111017.asp

子会社の活動紹介

「第3回バイオフロンティアセミナー」を開催

2011年10月20日に、当社子会社ビーエム機器（株）が研究者向けセミナーを開催しました。



開催テーマ

がん研究における *in vivo* イメージング※の現状と今後

※「*in vivo* イメージング」とは
実際の生体の中（*in vivo*）でのタンパク質の動きを画像化する技術

株主の皆様への利益還元について

当社は、当期より「株主の皆様への利益分配の機会の充実」を図るため、中間配当を実施しております。

当期の1株当たり中間配当は800円、期末配当は当初予想より200円増配の1,200円とさせていただきました。その結果、年間配当は前期比200円増配の2,000円となりました。

1株当たり配当金

	中間配当	期末配当	年間配当
当期 2011年12月期	800円	1,200円	2,000円
前期 2010年12月期	—	1,800円	1,800円

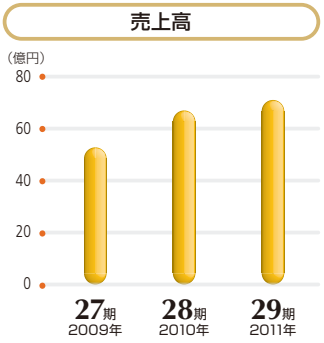
自己株式取得
2011年8月26日に、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、自己株式（普通株式:1,200株、取得価額67,440,000円）を取得しました。

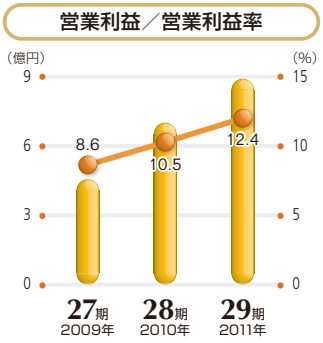
表紙について

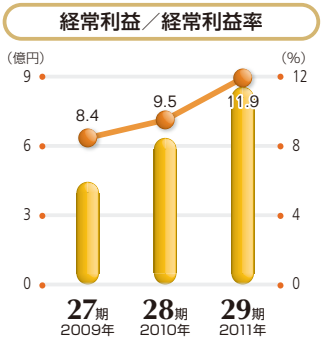
地球が育んでいる無数の生命体。私たちコスモ・バイオは、その一つひとつに秘められた無限の可能性を最大化させることで、人と科学のステキな未来へつなげていきます。

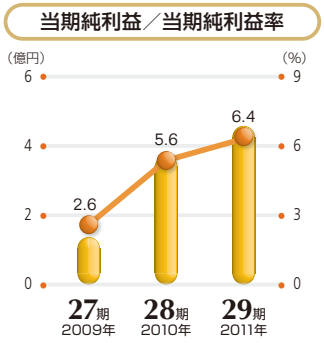
今回の表紙は、命の"つながり"を大切に考え、未来へと"つなげ"ていく私たちの姿勢を表現しています。

営業の概況（連結）









業績ハイライト

■ 研究予算の減少と東日本大震災の影響

民間企業は堅調ながら研究分野の絞り込みがみられ、大学･公的研究機関では1～3月の予算が前年同期比で大幅に減少し、さらに東日本大震災により予算の執行が抑制されるなど、厳しい環境で推移しました。

■ 積極的な営業活動

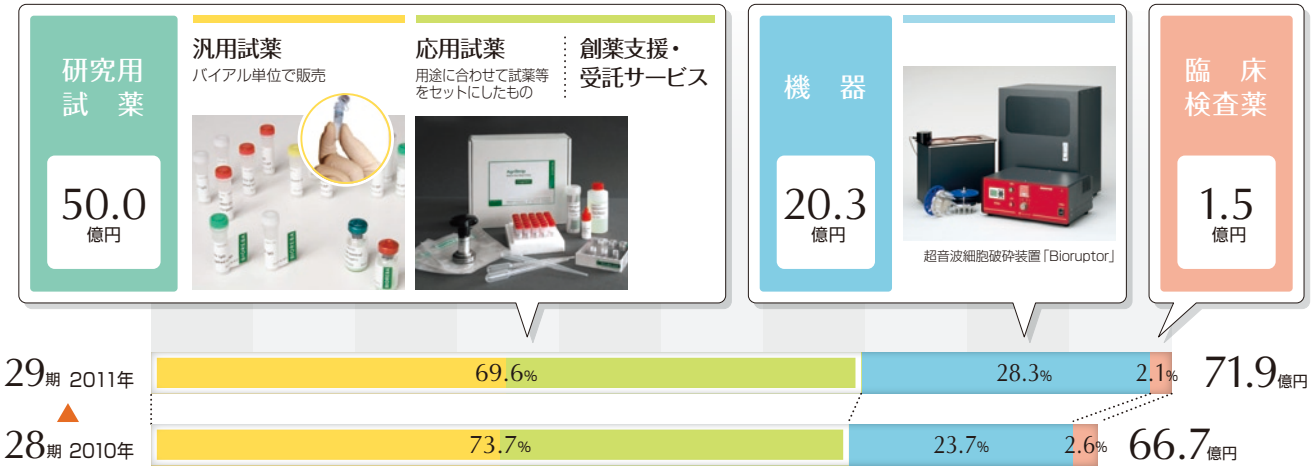
コア事業である国内販売を強化するため、新規商品・仕入先の開拓や販促活動に積極的に努めた結果、当期の連結売上高は前期比7.7%増となりました。

■ 円高傾向と経費節減の効果

円高傾向が続いたこと（前期平均87円/ドル→当期平均79円/ドル）、効果的な経費使用に努め計画以上の経費節減ができたことなどから、大幅な増益となりました。

商品分類別連結売上高

当期の商品分類別連結売上高は、以下のようになりました。構成比率の変化は、2010年3月に行ったビーエム機器（株）の連結子会社化によるものです。



連結財務諸表（要約）および主な連結経営指標

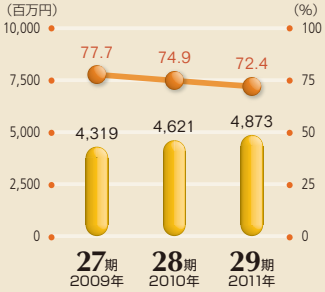
貸借対照表

（単位：百万円）

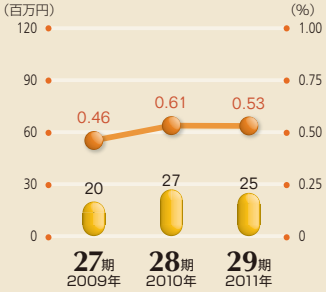
	前期 2010年12月31日現在	当期 2011年12月31日現在
資産の部		
流動資産	**4,720**	**5,264**
現金及び預金	980	1,279
受取手形及び売掛金	2,235	2,310
有価証券	606	834
たな卸資産	701	730
その他	203	115
貸倒引当金	△ 7	△ 6
固定資産	**1,449**	**1,470**
有形固定資産	163	179
無形固定資産	191	213
投資その他の資産	1,093	1,077
投資有価証券	746	782
関係会社株式	11	11
その他	338	287
貸倒引当金	△ 2	△ 4
資産合計	**6,170**	**6,734**

	前期 2010年12月31日現在	当期 2011年12月31日現在
負債の部		
流動負債	**831**	**1,092**
支払手形及び買掛金	397	420
短期借入金	20	20
未払法人税等	115	284
その他	298	368
固定負債	**281**	**298**
役員退職慰労引当金	15	28
その他	266	270
負債合計	**1,113**	**1,390**
純資産の部		
株主資本	4,664	4,899
自己株式	—	△ 67
その他の包括利益累計額	△ 43	△ 25
少数株主持分	435	470
純資産合計	**5,057**	**5,343**
負債純資産合計	**6,170**	**6,734**

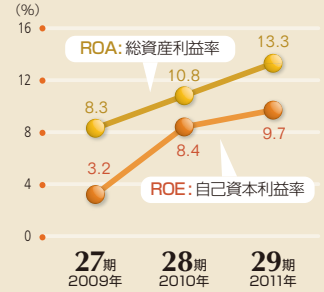
自己資本／自己資本比率



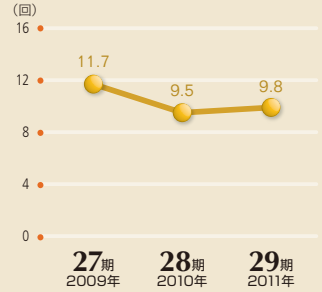
有利子負債残高／有利子負債比率



ROA ／ROE



たな卸資産回転率



One Point! 解説 1

「健全性」

当社は、財務の健全性確保に努めております。自己資本比率は70%以上の安定した状態を保っています。また、自己資本に占める有利子負債の割合を示す有利子負債比率は0.53%と極めて低い水準にあり、有利子負債残高はわずか25百万円（リース債務を含む）となっています。

One Point! 解説 2

「収益力」

当社は多くの商品を海外から輸入しており、円高傾向が続いたことから大幅な増収となり、ROA、ROEはともに向上しています。また、当社は在庫品の販売比率向上に努めており、その成果を示す一つの指標となる「たな卸資産回転率」（年間売上高をたな卸資産で割ったもの）は、10回転前後の高い水準を確保しています。

損益計算書

（単位：百万円）

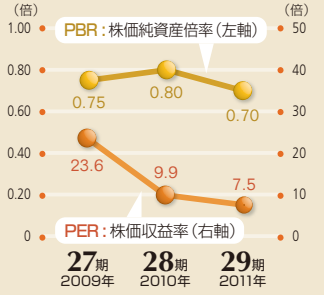
	前期 2010年1月1日～ 2010年12月31日	当期 2011年1月1日～ 2011年12月31日
売上高	**6,676**	**7,192**
売上原価	3,827	4,008
売上総利益	2,849	3,183
販売費及び一般管理費	2,147	2,292
営業利益	**701**	**891**
営業外収益	46	49
営業外費用	111	84
経常利益	**635**	**856**
特別利益	34	70
特別損失	17	46
税金等調整前当期純利益	**652**	**879**
法人税、住民税及び事業税	143	384
法人税等調整額	107	△3
少数株主損益調整前当期純利益	—	498
少数株主利益	27	39
当期純利益	**373**	**458**

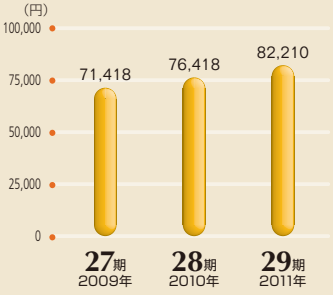
キャッシュ・フロー計算書

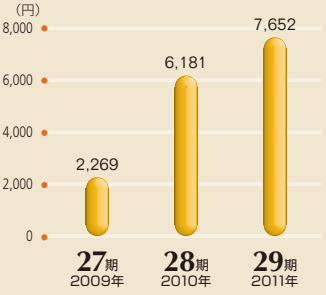
（単位：百万円）

	前期 2010年1月1日～ 2010年12月31日	当期 2011年1月1日～ 2011年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	202	880
投資活動によるキャッシュ・フロー	△334	△351
財務活動によるキャッシュ・フロー	△93	△232
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△7
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△229	289
現金及び現金同等物の期首残高	1,411	1,181
現金及び現金同等物の期末残高	1,181	1,471

（注）株価は各12月期の末日終値







One Point!

解説 3

株主還元

当社では、株主の皆様への利益還元を経営の重要事項の一つと認識しております。当社の株式を長期的かつ安定的に保有していただくため、安定配当を行っていくことを念頭に置き、配当性向を重視しつつ、今後の収益状況の見通しなどを総合的に勘案して決定すべきものと考えております。

当期より、第2四半期末と期末の年2回の配当の実施を決定し、スタートさせております。1株当たり中間配当800円、期末配当1,200円の、年間配当2,000円（前期に比べ200円の増配）とさせていただきました。この結果、配当性向は26.1%となっております。

会社概要 (2011年12月31日現在)

商号	コスモ・バイオ株式会社
設立	1983年8月25日
所在地	〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
資本金	918百万円
事業内容	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、 臨床検査薬の輸出入及び国内販売
従業員数	連結：118名　個別：79名

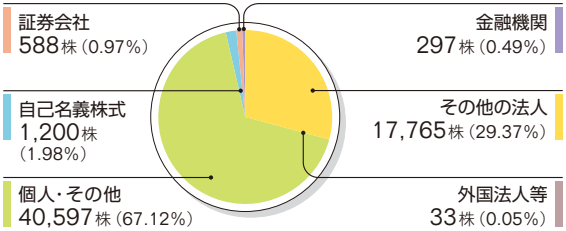
役員 (2012年3月27日現在)

代表取締役社長	笠松　敏明
専務取締役	田中　知
常務取締役	鈴木　忠
常務取締役	櫻井　治久
取締役	船戸　俊明
取締役	世良　伸也
常勤監査役	近藤　直正
監査役	佐々木　治雄
監査役	堀米　泰彦

株式の状況 (2011年12月31日現在)

発行可能株式総数……183,616株
発行済株式の総数（自己株式1,200株を含む）……60,480株
株主数……2,737名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	11,520	19.43
コスモプロパティサービス株式会社	5,760	9.72
コスモ・バイオ従業員持株会	3,491	5.89
原田　正憲	2,000	3.37
福井　朗	1,774	2.99
柴沼　篤夫	1,480	2.50
鈴木　忠	1,480	2.50
田中　知	1,480	2.50
高木　勇次	1,480	2.50
松本　眞和	1,247	2.10

（注1）コスモプロパティサービス株式会社はコスモ石油株式会社の連結子会社です。
（注2）議決権比率は、自己株式1,200株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月開催
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
単元株式数	1株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
公告方法	電子公告 http://www.cosmobio.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。）
上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQ スタンダード
証券コード	3386

株式に関するお問い合わせ先 ▶ 住所変更等、株式に関する手続き・お問い合わせは、お取引の証券会社へお願いいたします。

人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016
東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
Tel. 03-5632-9600　Fax. 03-5632-9613